

2026年2月22日午前10時30分

受難節第1主日 主日礼拝

司会 岩渕デボラ

奏楽 木戸恵美子

讃美歌・詩編交誦・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままはどうぞ。

(平和のまき)

前奏

招きのことば ヘブライ 2:17-18

讃美歌 296(1-3)「いのちのいのちよ」 一 同

交誦詩編 91:1-13(P.105/101)

祈り

司会者

『関東教区お祈りカレンダー』

加須教会 白岡菖蒲教会 和戸教会

(主の祈り)

讃美歌 296(4-6)「茨のかんむり」 一 同

聖書 旧約:エレミヤ 31:27-34(P.1236)

新約:マルコ 1:12-15(P.61)

メッセージ『神との関係の回復』

祈り

川上 盾 牧師

讃美歌 440「備えて祈れ」 一 同

『聖餐式(主の食卓) 讃312(1-3)』

献金

(献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのリタニー 第1主日) 一 同

頌栄 312(5)

川上 盾 牧師

祝祷

後奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18
イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかつたのです。事実、御自身、試練を受けて苦しめたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおきになるのです。

『2月礼拝当番』 植松みよ 徳江由利
大川原恵子 岩渕育雄
猿谷富子 長谷川瞳

『今週の集会・行事』

- ◎ 本日 13:00 CS午後礼拝 スタッフ会議
- ◎ 本日 15:00 地区壮年部総会(渡川教会・ZOOM併用)
- ◎ 24日(火) 牧師、育心こども園
- ◎ 27日(金) 牧師、共愛学園理事会
- ◎ 28日(土) 10:00 会堂清掃 E組

『次週の主日』

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『神の救いを認めない人々』

聖書:旧約:エレミヤ 2:7-11(P.1174)

新約:マルコ 3:20-30(P.66)

讃美歌 297, 291, 447, 1(4)

交誦詩編 18:1-7(P.22/18)

司会:伊藤愛子 奏楽:徳江由利

◎3月定例役員会 礼拝後

『予告』

◎ 聖研祈祷会 3/4(水) 10:30 & 19:30

◎ 世界祈祷日集会 3/6(金) 10:30

『ナイジェリアからのメッセージ』

於・バプテスト前橋教会

『報告』

◎ 本日はレント(受難節)第一主日です



先週の水曜日からレントに入り、イエス・キリストの十字架への歩みを覚える40日間が始まりました。今年もキャンドルの火を一本ずつ消しながら、イエス・キリストの苦難を覚えましょう。本日はレントを覚えて主の食卓に共にあずかります。レントが明ければイースター(復活祭)です。今年のイースターは4月5日。イースターに受洗・転入会を希望される方は牧師までお申し出下さい。特に洗礼を志望される方は準備がありますので、お早めに。

◎『宣教キャッチフレーズ』を考えよう！

教会案内看板を利用して、道行く人に教会が大切にしようと思っていることを届けられる、短い文章を募集しています。イメージは「お寺の掲示板」。ひとつだけではなく、複数のキャッチフレーズを考えて掲げ、その都度貼り換えていく...ということを考えています。難しい言葉ではなく、「こんな言葉が掲げてある教会なら行ってみたい」と思えるような言葉を、あなたのセンスで考えてみませんか。

『先週の集会』

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	54	22	31,360
婦人会例会		13	△

『メッセージ』「舟の中で眠る人々」

ヨナ書1:1-12, マルコ4:35-41(2月15日)

▼今週からレントが始まる。今日はレント前最後の日曜日、その主日に示された聖書の箇所には、いずれも同じ振る舞いをする人の姿が描かれている。それは「舟の中で眠る人々」である。▼旧約はヨナ書。預言書の中では珍しい、物語形式の内容である。あるヨナは神の召命を受けニネベ(アッシリアの都)で滅びの預言をするよう命じられる。しかし困難を覚えたヨナはこれを拒否し、神から逃れて舟に乗り、舟は突然嵐に見舞われるが、ヨナはその船底で熟睡してしまう。▼これは安らかな眠りではない。むしろ「どうにでもなれ！」というや、投げやりな思いの中での「ふて寝」のようなものだ。しかし神はそれでもヨナを見捨てず、放り込まれた海の中で魚の腹の中で命をながらえさせ、悔い改めへと導き預言者として立ててゆく...と続くのだが、それはまた別の話。▼新約にも同じように嵐の舟の中で熟睡するひとりの人の姿が描かれる。その人はイエス・キリストである。弟子たちと共に宣教を始めたイエス。ある日弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。イエスは一つの所に留まらない多くの人と新たな出会いを求めて旅を続行される。▼イエスに促されて舟を出す弟子たち。その時激しい嵐が舟を襲い、沈没しそうとなる。この嵐にもまれる舟はこれから始まるイエスの過酷な宣教の旅を象徴している。権力に近い人々の恨みを買いつまとざまな試練や苦難が押し寄せる...その最終地点がエルサレム、十字架の死である。▼もしイエスがガリラヤに留まり、支援者に囲まれて過ごしたならば十字架につけられることはなかつただろう。しかしイエスは苦しむ人々を救うために旅を続ける。その決意を表すのが「向こう岸へ渡ろう」という言葉だ。▼弟子たちは舟を漕ぎ出す。激しい嵐が彼らを襲うが、イエスは舟の中で枕をして寝ておられた。弟子たちが「私たちが溺れてもいいのですか?」と抗議すると、立ち上がり、海に向かって「静まれ! 黙れ!」と言われた。すると嵐は収まり、そして言われた「なぜ怖がるのか!まだ信じないのか!」▼嵐の中の舟、それはイエスの苦難の旅の象徴...しかしその中でイエスは安らかに眠つておられた。神にすべてを委ねることのできた人こそが持てる、本当の平安な心がそこにある。▼映画『ボン・ヘッファー』の中で、ナチスの弾圧を避けるためにアメリカに避難したボン・ヘッファーが、「この困難な時に仲間のものを離れてアメリカに逃げるのは間違ひではないか」と自問し、再び帰国を決意する場面があつた。アメリカに渡る船の中で、彼はヨナのような心境だつただろう。しかし帰國する船の中では、イエスのようないへと導かれたのではないかと思う。▼これから先、日本は困難な時代を迎えるかも知れない。そんな時、教会はヨナのように逃げて「ふて寝」を決め込むのだろうか。そうではなく、イエスのように神のみ旨にすべてを委ね、神に従う決意と共に、そのような人にこそ与えられる安らかな眠りへと導かれるものでありたい。